

## 令和6年度 事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(法人の名称： 特定非営利活動法人場作りネット )

### 1 事業の成果

物価高騰やコロナ後の新常態への目まぐるしい社会の変化の中で、各事業における相談対応件数、困難事例も増加傾向にある。相変わらず家庭の中での暴力抑圧や、個別の苦しみは深く心身に影響を及ぼし、自殺を含めた深刻な結果を招く状態がある。それは社会構造が生み出している苦しみである。ジェンダー規範による抑圧や支配、分断された個人であるが故の出口の無さも、社会構造が人々に要請している「状態」なのであって、我々も日々その中で苦しみ、また構造に加担している。我々の事業すべてにおいて前提とされる立脚点はそこにある。苦しみを抱えた人達を一義的に救済し、この社会構造が機能し続けるために存在するのではなく、苦しみとの出会いを通じて、共に変わっていく存在として位置づき、共に社会を変えていくための事業を行うものである。

コロナ禍以降「出会い直し」を合言葉に、相談窓口からの出会いをきっかけにして、共に変わっていくための場作りを展開してきた。SNS事業（ネットの居場所）においては、暴力抑圧を受けて苦しんでいる若者たちが経験を語る場の運営を行った。ネット上での居場所作りを行うとともに、それぞれの経験を社会に開いていくことで、同時に社会提言としての要素を持たせている。上田の街中で取り組んだ「のきした仕事事業」では企業や事業所の協力を得て、仕事や役割や居場所を街中に発生させる取り組みを展開した。当事者たちの居場所を共に作るということに加え、その出会いによって街が変わっていくことを志向し、企業が独自に事業化してくれるなど成果があった。街の駆け込み宿「やどかりハウス」では、コロナ禍以降、減ることのない駆け込み需要に対して、ニーズに応じた居住支援を行いながらも、運営資金を人々の力で集め、人々の力で成り立つ社会資源を目指して「助かり合うわたしたちプロジェクト」を展開した。120名を超えるサポーターや500名を超える寄付者が集まり、またその経過の中で「やどかり刺繍班」などコミュニティも発生し、空き家を貸してくれる人たちが生まれる（やどかりのねどこ）など、人々の「助かり合い」が巻き起こってきた。また、これまでの活動が公に認められ、2025年度は長野県の補助を受けることが決まった。年間200名を超える人々が駆け込んでくる場所を人々の力で守り継続させようとした運動が、公に認められ社会化された大きな成果と言える。しかし一方で、この問題に取り組む責任を果たさなければならないのは公的セクターを含めた「社会」の側である。私達だけが取り組める問題ではなく、各自治体や病院や相談機関などがそれぞれに対応していく必要がある問題でもあり、また市民が取り組むべき問題でもある。公的な補助を受けるということが、単に問題を請け負うことにならないように、引き続き社会に問題を開きながら、共に変わっていくという実践を意識して取り組んでいきたい。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
総合相談支援事業	<p>【よりそい事業】</p> <p>フリーダイヤルやチャットによる24時間365日の相談支援事業を実施。3つのコールセンターを運営。各センターにコーディネーターを配置し、同行支援等直接支援を実施した。電話相談をきっかけにした伴走支援の経験の実績が認められ各自治体の相談窓口研修の講師を行うなど行政との連携も積極的に行った。</p> <p>(令和6年度寄り添い型相談支援事業 北信越地域センター)</p>	<p>(A) 2024年4月～2025年3月</p> <p>(B) 長野県上田市 富山県高岡市 新潟県長岡市</p> <p>(C) 52名</p>	<p>(D) 相談支援を必要とする人</p> <p>(E) 4818名 (延べ)</p>	45,652千円
総合相談支援事業	<p>【SNS相談事業】</p> <p>SNSによる自殺防止対策相談(厚生労働省令和6年度自殺防止対策SNS相談事業「生きずらビット」内の対話の居場所事業死にトリを担当。ネット上の居場所の運営と寄せられる声に回答することを主な業務として行った。実社会にカウントされない困りごとがネット上には溢れており、そこに回答していくことが今後の相談支援業務に求められており、そのノウハウを練り上げることができている。</p>	<p>(A) 2024年4月～2025年3月</p> <p>(B) 長野県上田市</p> <p>(C) 5名</p>	<p>(D) 相談支援を必要とする人</p> <p>(E) 約30万アクセス</p>	5,744千円
生活困難者への生活支援事業	<p>【やどかりハウス事業】</p> <p>女性や母子が安価で宿泊できる駆け込み宿の運営を行う。また、宿泊のみならず、ピアサポートグループの運営など、繋がり作りにつながる社会資源を創出することを目的とする。(自主事業・赤い羽根10回助成)</p>	<p>(A) 2024年4月～2025年3月</p> <p>(B) 長野県上田市</p> <p>(C) 約14名</p>	<p>(D) 必要とする人</p> <p>(E) 148名宿泊 136名 LINE相談</p>	6,730千円

生活困難者への生活支援事業	【やどかり中長期事業】やどかりハウスを運営する中で課題となっていた中長期の宿泊を必要とする人達の住居確保として、シェアハウスの運営、マンスリーマンションを使った居住支援を行った。 (赤い羽第9回助成)	(A) 2024年4月～2025年3月 (B) 長野県上田市 (C) 14名	(D) 相談支援を必要とする人 (E) 約44名	2,800千円
地域コミュニティ・社会資源創出事業	【のきした仕事事業】街中の店舗や企業に協力をお願いし、街中で仕事体験ができる事業を行う。就労の前段階で社会経験を必要としている人や、街に居場所を必要としている人などが有償ボランティアとして就労体験を行う事業（孤独孤立モデル事業助成）	(A) 2024年4月～2025年3月 (B) 長野県上田市 (C) 3名	(D) 必要とする人 (E) 約76名	1,760千円
生活困難者への生活支援事業	【食糧支援事業】上田市の助成を受け、生活困窮者支援窓口との連携の中で、特に子育て世帯への食糧支援を行った。 上田市内の障がい福祉事業所リベルテや母子寮やSSWなどと協力をしながら必要としている人達に届くような工夫を行うことができた。	(A) 2024年4月～2025年3月 (B) 長野県上田市 (C) 12名	(D) 必要とする人 (E) 327名	399千円